



神戸中学校の図書室

あまりにもお粗末 学校図書館への 司書配置

すずかみんぼう

第151号
2018年8月

学校図書館司書配置状況比較表

	巡回回数	備考
鈴鹿市	年間5回(小中40校)	予算2,053千円
亀山市	週2回(単学級の小規模校は週1回(小中14校))	教育委員会に学校司書アドバイザー配置
四日市市	年間40~48回(読書活動推進校はプラス6回(小中60校))	予算39,228千円
津市	週1回(小中57校)	予算28,717千円
松阪市	中学校は週1回、小学校は月1回(小中47校)	市立図書館に学校図書館担当チーフ司書配置
鳥羽市	週1回	

学校図書館は家庭環境に左右されず、すべての子どもが等しく本に出会い、本を活用できる場であることを考えると、児童生徒の読書活動を支える学校図書館の役割は大きく、その充実が学校教育の中で重要な位置づけがなされています。

6月議会で森川ヤスエ議員は、①学校図書館の位置づけについての認識、②各学校図書館への司書の配置、③学校図書館担当者の研修についてを、県内近隣市と比較をしながら鈴鹿市の遅

日本共産党鈴鹿市議団 市議会報告

鈴鹿市は年5回
他市は週1回以上

三重県下の実態は、全校に配置されるほど進んでいませんが、鈴鹿市と比べると大きな違いがあります。

鈴鹿市は外部委託で年間5回程度の巡回ですが、他市の状況は表の通り、最低週一回は巡回しています。

せめて県下の平均まで一気に引き上げる必要があると、改善を求めました。

教育長からは、「子どもたちの読書に対する興味や関心を一層育み読書習慣を確立していくためにも学校司書の果たす役割が大きいことを実感をしている。学校図書館司書あるいは読書アドバイザーなどの人的配置をもう少し具体的に教育委員会としっかり議論をする中で、ほかの課題もあるが、何とか実行できるように努力をしていきたい」との答弁でした。



市民が親しみ楽しめる 鈴鹿の山に 山歩きルートの整備を

石田秀三議員は、鈴鹿の山や溪谷を歩くルートの整備について、山を歩いて調べた現場の写真を示しながら質問しました。

最近の林業の不振や気候変動による大雨などで、どこでも山が荒れてきています。天然記念物に指定されている「屏風岩」に行く山道は、上に架かる吊り橋を渡って下りる道が荒れていて、下りるのが困難になっ



「屏風岩」と吊り橋
(橋から先の道が荒れている)



入道岳・井戸谷コースの危険箇所

ています。また、入道岳の登山道のうち「井戸谷コース」の中ほどでは斜面が崩れ、修復はされているものの足下が安定せず転倒しやすくなっています。

安全のための
「最低限の整備」を

石田議員は、市の観光パシフレットに紹介されている



千代崎海水浴場すぐ横に 津波避難ビル

千代崎海水浴場すぐ横にあった四季ホテル・プラージュ鈴鹿が営業を終了し、サービスピュ付高齢者向け住宅「プラーージュなごみ」に生まれ変わりました。その改築に合わせて、鈴鹿市が「津波避難ビル」としての協定を締結しました。

この建物が改築されることを知った近所の方から、「津波避難ビル」としての機能も付加できないかと相談され、実現に結びついたものです。

市補助利用第1号

昨年度から鈴鹿市は、津波浸水予測区域内にビルを



津波避難ビルとして改築された老人福祉施設

新築や改築するときに、津波避難ビルとして活用できる施設に対して、補助制度を新設しましたが、補助利用施設第1号となりました。

橋詰議員は、津波浸水予測区域内でこの事業が広がることを期待したいと、語っています。

る場所に、安全に行けなくなっているのは問題だ、また登山道で注意していても転倒するような箇所には、最低限の安全策が必要だと、整備を求めました。

産業振興部長から、どの現場も機械が入らない場所であること、また予算的にも「森と緑の県民税」の交付金では足りず苦労しているが、それでも「最低限の整備」は行いたい、と答弁がありました。

生活保護基準の引き下げ 他の福祉施策にも影響

安倍内閣は今年10月から、生活保護基準の見直しで最大5%引き下げます。前回2015年の引き下げと合わせて1100億円もの引き下げです。

その理由「一般低所得世帯の所得が下がり続けている」―下がってきた「貧困ライン」に合わせて保護基準を下げれば、貧困と格差がさらに悪化します。この国は先進国では日本だけです。

保護基準が下がると、保育料、就学援助、介護保険料、最低賃金、住民税など多くの施策に連動し、保護利用者でない市民の暮らしも悪くなります。

石田議員は、市が行なう福祉施策の水準を引き下げ



石田 秀三 市議

ない対応をするよう求めました。

申請から決定まで 14日以内が基本

これまで鈴鹿市では、市民が保護を申請しても決定の法定期限14日を守らず、ほとんどを「例外」の30日以内まで延ばしていました。共産党市議団は法定期限を守ってすみやかに決定するよう求めています。今年4月からやっと改善されました。

石田議員の質問に保健福



野辺町内の市道

歩行者優先の道路に

この写真は野辺町内を通る市道です。道路に並行している水路を暗渠にして道路幅を広げましたが、広げただけでは歩行者用にして、車も人も安全に通れるように工夫されています。

このように歩行者スペースを大きくとる工夫を、市内各地の道路ですすめていくことが求められます。

社部長は、4～5月の開始決定21件中14件が法定期限内、平均所要日数は14・6日と答弁しました。

石田議員は「困窮して窓口駆け込んできた市民を1月も待たせるような対応が間違っていた。やる気になれば出来る。他の問題も、市民目線で見直すべき」と、次の点についても改善を求めました。

◎扶養義務調査 申請者の

親族（親子・兄弟）に扶養の意思を調査することは、一律にすべきではない。各人事情は様々で、何十年も会ってもいない人まで調べ必要はない。

◎自動車の保有 鈴鹿のよな町では自動車は欠かせない。処分しても評価ゼロの車は「資産」ではなく、使う方が生活の自立につながる。一律の運用は見直すべき。

コミュニティバス 地域交通の実現を求める



毎日のように高齢者のクルマの事故が報道され、大きな社会問題になっていきます。高齢者がクルマに乗らなくても生活できるように、公共交通サービスを提供することは、自治体の大事な仕事のひとつです。

6月議会で、橋詰圭一議員は「高齢者の生活交通について」5回目の質問を行いました。

「駅やバス停まで一キロメートルも歩いて行けない」と



橋詰 圭一 市議

「駅やバス停まで一キロメートルも歩いて行けない」という高齢者の声を真剣に検討すべきであること、平成22年に、市内公共交通網の将来像イメージで示された「周辺エリアにおいて、小規模な交通需要に対応できる公共交通システムの構築をめざす」ことが絵に描いた餅に終わっていると、早急な検討を求めました。

答弁は、高齢者が歩いてバスを利用しようと思う距離は何メートルか、高齢者の声も聞いて、新しい移動手段を考える上での様々なシミュレーションを今年度に行う。皆様方からご意見を頂戴しながら、その時代やニーズに応じた交通政策を検討していきたいと、一

介護予防教室 送迎費補助の 継続を



介護予防教室など、高齢者のサービスは送迎が基本的に必要ですが、これまで送迎について支出されていた補助が廃止されました。森川議員は、移動手段を持たない皆さんや、施設の手薄な地域の皆さんは送迎

亀山市では1億円 鈴鹿市でも1億円

歩踏み込んだ内容でした。亀山市では、運賃百円の各地域のコミュニティバスが6路線あり、廃止代替路線バスへの補助などと合わせて市税を約1億円負担しています。また、バスへの補助とは別に、高齢者の外出支援を目的とした75歳以上の高齢者に対するタクシー料金助成事業、年間1人1万円分のタクシー券助成も行っています。

全国の多くの自治体では公共交通サービスの充実に、一般会計予算の約1%近くを使っています。鈴鹿市は0・17%の1億円です。

いま、コミュニティバス
地域交通の実現が求められています。

生活相談など お気軽に連絡下さい

- 石田 秀三 ☎371-0423
鈴鹿市伊船町 2751
- 森川ヤスエ ☎384-3740
鈴鹿市矢橋3丁目10-34
- 橋詰 圭一 ☎386-8561
鈴鹿市岸岡町 2874-1

その移動手段をどうするかは大きな問題であると認識している。高齢者が参加しやすい介護予防事業の在り方も含め効果的な事業になるよう、様々な視点で来年度に向けて検討していく。また徒歩で参加できる範囲での介護予防教室の開催、つどいの場づくり、担い手の育成に努めていく」との答弁でした。



森川ヤスエ 市議

日々の活動は
Facebook
ブログ、HPを
ご覧ください

石田 秀三
森川ヤスエ
はしづめ圭一
検索